

もものくいんぼう すけっちびより

第42回

天然林が残る 豊かな自然あふれる 創造の場所

札幌・江別・北広島にまたがるとても広い野幌森林公園。その敷地面積を改めて調べると2053haあるようだ。貴重な天然林の保護と明治から100年経ったことの記念事業として、道立自然公園に指定されたとある。原始の森の姿を今も残すこの公園はたくさんの生き物の住処すまかでもあり、鳥獣保護区でもある。敷地内にある北海道博物館のマップを見ると、たくさんの散策ルートがある。どのルートで散歩するのか、初めていくときは目的を明確に下調べした方が良い。

この公園の近くに住み、この公園をこよなく愛し、木版画を制作し続けた絵本作家がいる。2021年に40作目の絵本「きたきつねとはるのいのち」を最後に刊行し、86歳で引退された手嶋圭三郎氏だ。手嶋氏の絵本をめくると繊細で大胆な木版画の描写に、心をキュッと奪われる。静かで神聖な自然の営みが息づく絵本は、手嶋氏がこの野幌森林公園を毎日散歩し、スケッチしたその集積が根底を成している。「大自然が全ての師」であるとずっと思っているが、手嶋氏の絵本そのものがそれをたいげん体現している。

今年は元日から能登半島地震で始まり、世界をぐるっと見渡せば、たくさんの自然災害と人災である戦争があちらこちらで起こっている。どの生き物も人も、この世に命を受けたからには「生きる」という営みをいつか亡くなる日まで選択し続けるのだが、あんのん安穏と平和でいられた世界はもしかしたら終わっていて、今はいつ何が起こっても不思議ではない薄氷の上の世界で生きているのではと、ふと思う。それでも日々を慈しみながらニコニコ笑顔で、自然を尊び、平和をしんじょう信条として生きるのがいいと、この春にあらためて思う。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: さざやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。